

### 3. リレーエッセイ (2024年9月号)

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葎田 昭子 (よしだ あきこ) さんによるリレーエッセイの最終回です。葎田先生、これからも、共に「青い鳥」を探し求めていきましょう。3 回に渡る素晴らしい原稿、ありがとうございました。

#### 非認知能力という青い鳥 3

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葎田 昭子



幸せの青い鳥は、足元や肩先にそっと留まって居る。けれど子どもたちは将来のための前倒しが教育と目されることも多く、先を見る、将来に備えろと言われて気づかない。

子どもたちに就きたい職業を問うと、その基準は安定や収入という現実的なものが多く、分別的でつまらない。実際のところ、生きるためと言って、認知能力に目を奪われ、成れるものを偏差値で輪切りにされ、将来のために、タイトルのために一週間の予定は埋まり非認知能力という青い鳥は、もはや虫の息である。

蛙の子は蛙ではダメなのか。トンビが鷹を生んだと言われんがために、子ども自身の質を観ようとせず、劣等感が増幅する。種に優劣はなく、人間が及ばない能力をもち、生態系エコシステムの中に貢献している生命である。

一方人類が生き残ってきたのは、非認知能力に由るところが大きいと思う。蟬が踏み固められた地面を空の方へ穴を開けるように、ネズミが鋭利な歯でクルミを食べるように、獣の換毛期に鳥はせせせと営巣するのと同じように、そもそもその能力は、自然界にあれば、生き残るよう備わっていたのであって、マニュアルや忖度、等価交換という端折りや他意とは無縁だったのではないか。

子どもは、この世界の美しく、奥深いことに驚嘆し、思い通りにならないことがあるから、退屈せず、面白さのためには困難も厭わない熱意が湧き、得手不得手があるから仲間と助け合って今を生きられる。やがて大人になって、そういう人々が集まって暮らすようになると、ようやく温かい血の通った社会になるのではないか。

だから子どもたちには、今をちゃんと試せる遊びが経験できる場所の環境保護が急務だ。瀕死の非認知能力という青い鳥は、自然と共にある人里の水が合う。時計をはずして放してやると目を輝かせて息を吹き返すだろう。

#### ※執筆者紹介

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葎田昭子 (よしだ あきこ)

保育士として 4 年間埼玉県に奉職したあと、ゼロから創る人になりたくて陶芸の弟子となる。陶芸家として16年。3男の母。2008年息子の幼稚園が早期教育に転換することを機に仲間と自主保育のようちえん「花の森こども園」を立ち上げる。2021年地方裁量型認定こども園となり、同園園長。著書に「ようちえんははじめました！」(新評論)

<http://www.hananomori.org>



#### ※ご案内：「第19回森のようちえん全国交流フォーラムin埼玉」開催情報

リレーエッセイの筆者、葎田昭子先生が運営に携わっておられる「森のようちえん」全国交流フォーラムの開催情報です。詳細はホームページ (QRコード) をご参照ください。

